

コード	501033001
記入日	H21.6.30

事務事業途中評価表

課コード	124
課名	学校教育課
課長名	網田 勝
担当者	諸国正寿

作成年度	平成 21 年度
------	----------

評価対象事業名称	県中総体出場補助金事業	事業種類	単年度繰返事業
		事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	10
施策コード	501	施策名称	学校教育の充実	項コード	3
基本事業コード	50103	基本事業名称	教育内容の充実	目コード	1
事務事業コード	5010330	事務事業名称	県中総体出場補助金事業	細目コード	979
関連計画			法令・条例規則等	新上五島町補助金等交付規則	

計画 (PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。					
対象: 誰、何を対象にしているのか			対象指標: 対象の大きさを表す指標		
(対象1) 町内中学校の部活動に参加している生徒			(対象指標1) 6校 777名		
(対象2)			(対象指標2)		
事業の概要: 具体的なやり方、手順、詳細を記入			活動指標: 事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)		
(全体)		(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率) (達成率積算根拠) (目標達成年度)
*****		県中総体及び県新人戦に参加する生徒に補助を行い、部活動の促進を図った。 県中総体 6校 262人 九州大会 1校 1人 全校大会 1校 1人 県新人戦 6校 119人 合計 383人	***	***	***
			補助金交付学校数	6校	100% 補助金交付学校数6校 ÷ 補助金申請学校数6校
			①	(達成率分析)	県大会へ出場する中学校6校すべてに補助を行った。
			②	(達成率分析)	
目的: 何をしたいのか			成果指標: 目的の達成度を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)		
県中総体、県新人戦の交通費、宿泊料を補助することで、保護者の部活動に対する経費負担を軽減し、併せて部活動の振興に寄与する。			(指標名称)	(指標数値)	(達成率) (達成率積算根拠) (目標達成年度)
			*****	*****	*****
			①	県中総体入賞者数	4人 80% 県中総体入賞者数4人 ÷ 前年度入賞者数5人
			(達成率分析)	入賞者は前年度より減っているが、全国大会出場者1名があった。	
			*****	*****	*****
			②	県新人戦入賞者数	0人 県新人戦入賞者数0人 ÷ 前年度入賞者数3人
			(達成率分析)	今年度は入賞者はいなかった。	

実施 (DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。											
	単位	全体計画		平成19年度以前	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 校	24	24	18	6	6					
	②										
成果指標	① 人	45	44	40	5	4					
	② 人	19	16	16	3	0					
総事業費 C (A+B)		千円	31,042	30,858	23,356	7,686	7,502				
直接事業費 A		千円	28,242	28,058	21,256	6,986	6,802				
人件費 B		千円	2,800	2,800	2,100	700	700				
内 訳	従 事 職 員 数	人	0.4	0.4	0.3	0.1	0.1				
	人 件 費 単 価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
C の 財 源 内 訳	国 補 助 金	千円									
	県 補 助 金	千円									
	起 債	千円									
	そ の 他	千円									
一 般 財 源		千円	31,042	30,858	23,356	7,686	7,502				

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	離島という格差は正や中学校の部活動振興のためには必要である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	生徒数・学校数の減少はあるが、出場学校枠および大会規模には変更がないので、今後も部活動振興のためには必要である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	● 適切 ● 不適切	理由	県大会へ出場し競技力を高めることは、部活動振興のためには必要不可欠である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由	高レベルの大会を経験させることで、生徒の健全育成に十分寄与している。
	成果を向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	継続していくことで、成果が向上する。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	● ある ● ない	理由	部活動に対する生徒のモチベーションが低下するとともに、保護者の負担が増加する。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ● できない	理由	単一事業であり整理統合はできない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	● できる ● できない	理由	出場枠の見直し等により削減の可能性はある。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ● できない	理由	最小の人員で行っており削減はできない。
	受益者負担は適正ですか。	● はい ● いいえ	理由	条例に沿っており適切である。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	計画を見直す必要はない。
		有効性	県大会出場を目標に競技力の向上が図られている。
		効率性	県大会出場のための枠や記録の見直しをしながら効率的に予算執行を行う。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
		有効性	生徒が部活動をとおり県大会の出場経験を有することは健全育成の面からも有効なものと判断する。
		効率性	補助金の執行においては適正に行うこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。